

出生登録の目的と意義



出生登録は、子どもの人生にとって大切な権利
©UNICEF

子どもが生まれたら、「出生登録」をするのは日本では当然のことと考えられています。しかし、『世界子供白書2006』の報告にあるように、開発途上国では多くの子どもたちが、出生登録をされていません。その現状や背景を調べると、登録されない子どもが暮らす国や社会が深刻な問題をかかえていることがわかります。

ユニセフが発表した資料『The 'Rights' Start to Life』から「出生登録」についてご紹介します。

出生登録の大きな目的

出生登録には2つの大きな目的があります。「法的な目的」と「統計的な目的」です。出生登録は人の存在を法的に確認し、最初の住民登録となるものです。

住民登録によって、人口に関する統計情報などを把握できるようになります。正確な情報から確認される統計によって、地理、社会、経済など、さまざまな現実が明らかになってきます。

また、統計結果の活用によって、国の保健や教育、居住環境、水と衛生、雇用、農工業生産部門の詳しい計画がつけられ、開発計画や事業の実施が推進されていきます。

出生登録の現状

① 世界の出生登録状況

世界の国や地域ごとの出生登録されていない子どもの割合を下記の表で見ると、開発途上国では多くの子どもが登録されていないことがわかります。

サハラ以南のアフリカや南アジアのように、登録されていない子どもの割合が半数以上にものぼる地域もあります。

出生登録されていない子どもの割合(2003年)

地域	出生数 (千人)	出生登録されていない子どもの割合 (%)	出生登録されていない子どもの数 (千人)
サハラ以南のアフリカ	26,879	55	14,751
南アジア	37,099	63	23,395
開発途上国全体	119,973	40	48,147
先進工業国	10,827	2	218
世界	133,028	36	48,276

※表は上記資料からの抜粋です

② 出生登録がされない理由

登録されない理由は次のようなことです。約20カ国で、登録費用が高いことが理由にあげられています。

- 登録の費用が高い
- 登録のために遠くまで行かなくてはならない
- どこで登録するのかを知らない
- 登録しなければならないことを知らなかった

③ 出生登録の実施状況

出生登録状況から次のような傾向が確認できます。

- 人口のうち、上位20%の富裕層の登録率が高い
- 登録をしていないのは、下位20%の貧困層の人びとが多い
- 登録受付場所が住んでいるところから遠いと登録しない人が多い
- 母親が教育を受けていると登録する割合が高い
- 予防接種は出生登録を確認したり、出生登録をしていない人が登録する機会になる

出生登録を進めるために

出生登録を行うことは、子どもの命と権利を守ることに繋がります。そのためには、どこにクラス人であっても、登録費用を無料にすること、登録しやすくすること、登録の意味を理解してもらうこと、母親の理解を高めること、予防接種などと組み合わせた取り組みを行うことなどが大切です。



出生登録をされないと、子どもは存在を確認されないまま、きびしい状況で生きていかなければならない(インドネシア)
©UNICEF/HQ99-0808/Roger Le Moyné